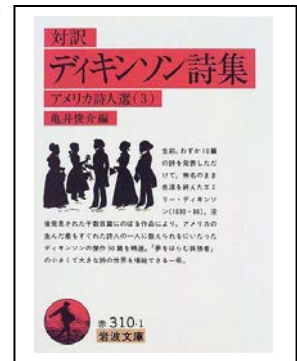


「希望」は羽根をつけた生き物

1. 「夢」と「希望」

右掲は、岩波書店の「対訳ディキンソン詩集」で中村俊介編集の詩集です。アメリカの詩人エミリー・ディキンソンの詩について読売新聞のコラム「四季」で長谷川権氏が取り上げていました。

「希望」とは羽根をつけた生き物——
魂の中にとまり——
言葉のない調べをうたい——
休むことがない——



と続くと紹介しています。この記事も毎週書き続けて800号を超え、私自身も間もなく73才になろうとしています。「老い」との闘いですが、サムエル・ウルマンの詩「青春」にあるように若さは肉体ではなく心の若さという言葉に励まされています。そのような背景があつてこの記事に心が動いたのです。

私は、「青春」から「若さ」=「信念」x「自信」x「希望」と公式化しています。73才になろうとしているので「信念」と「自信」は実績に裏付けられているのですが、課題は「希望」なのです。このディキンソンの詩の“「希望」とは羽根をつけた生き物”に実感するのは、そして、「魂の中にとまり、言葉のない調べをうたい、休むことがない」と続いているのです。確かに、大きくなったり小さくなったり生き物のように変動しているのですが、実は「希望」が生まれたり消えたりする方が実際に近いのです。つまり、恐ろしい事ですが「消える」という事もあり得るのです。

そこで、問題となるのは「夢」と「希望」の関係です。Web で調べると

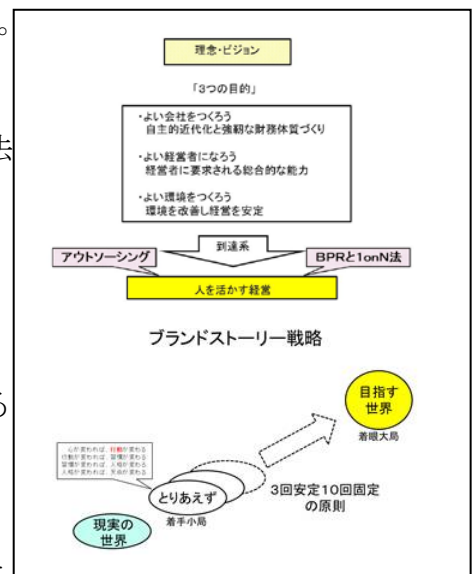
- ・「夢」とは、将来的に実現させたいと思っている事
- ・「希望」とは望ましい結果を獲得したいと期待を持って願う事や、その願いそのものの事

また、将来に対する期待や、明るい見通しの事も「希望」と呼ぶとありますが、「夢」には儚いや頼りない面がある願望であり、「希望」には実現性を含んでいる願望と言ひ換える事ができます。数式的には「夢」>「希望」となります。

2. 夢・デザイン・現実

右掲は中小企業家同友会の「3つの目的」を表したものです。「理念・ビジョン」が「夢」にあたり、ブランドストーリー戦略のように「到達系」を通して「希望」を一つずつ実現して「人を活かす経営」を実現するのです。まさに「着眼大局、着手小局」の手法なのですが、「目指す世界」を大きく描くのが「理念やビジョン」という「夢」なのです。前述のように「儚い夢」という現実離れも重要なのですが、「とりあえず」で示すように「希望」というのは実現性が重要なので「手の届くこと」から着手する事が必要です。「到達系」というデザイン設計が重要なポイントなのです。

多くは設計通りに行かない事を前提にして現実離れを避ける事がポイントになります。「夢」をブレイクダウンして優先順位をつける事がポイントなのです。例えば、身近な方に相談して試してもらい問題点を洗い出す事も重要なプロセスなのです。そして、「手順・ツール・トーク」を決めて実践練習も大きな要素になります。



3. 「百歳現役」という「夢」

「哺乳類は本質的には怠け者」と言われています。満腹になると寝そべるのです。人間も哺乳類なので本質的には怠け者なのです。例えば、「ヒマな波動」という言葉がありますが、仕事量が減ってヒマになるとそれに適合してしまうのです。私はトヨタ系販売店に勤務しましたがコンピュータを担当する時に上司から「ピエロ・オン・ザ・ボール」という言葉で営業の方は仕事量を増やして忙しくさせるシステムが重要だといわれました。社長からは「クルマが売れるコンピュータ」という使命を頂き、いわゆるCRMシステム構築を志したのです。

自分自身も当時のコンピュータは4年サイクルで代替していたのでシステム開発の端境期があるのですが、その空白の期間に色んな事に着手していました。その中で特筆するのは関連会社がIBM特約店になったのでS/34からの移行に本来ならS/38というデータベース機なのですが、政治的な背景があって関連会社からS/36に移行したのです。S/36はS/34とイコール・コンバージョンが出来たので新規開発が少なかったのです。この時に社外のシステム開発を願い出て3年間で約1億円の売上をし、生産管理のMAPICSや異機種間通信のAPPCそしてオンライン通信料削減などの自社で経験できない事にチャレンジしたのです。この時の人脈が今も活かしているのです。

「百歳現役」という「夢」を掲げて実現する為に出来ることを毎日実践しています。お陰様でもうすぐ73才になろうしておりますが現役時代のように怠けるのではなく積極的に生きています。確かに、体力的な変化を実感するようになっていますが、この事実を受け入れQOL=「運動」x「食事」x「社会」の公式でアンチエイジングしています。その中にはCMS方式のHPを自分でメンテしたり、HTMLメールやリストツールを活用するなどの新しい事にチャレンジも含まれています。若い人に教わりながらですが何とか実現しています。右掲はHPの新着情報ですが、5つの項目で毎日努力している事を表して、結果的には自分にムチを打つ刺激になっています。



4. 「希望」とは羽根をつけた生き物

読売新聞の記事にあったディキンソンの詩「希望」とは羽根をつけた生き物、魂の中にとまり、言葉のない調べをうたい、休むことがないから「着眼大局、着手小局」の視点で出来る事を一つずつ展開する事が大切と現実論を実感しています。「希望は望ましい結果を獲得したいと期待を持って願う事」と理解して「着眼大局、着手小局」の視点で「希望」がもてるように身の丈で一步步「望ましい結果」に近づいています。まさに「羽根をつけた生き物」というように前進して大きくなる事がポイントだと実感しています。

「セルフエスティーム」(自分としても誇りに思い、他者からも充分に認められるであろうという自負心・自尊心)を大切にする訳ですが、その手法は毎日の積み重ねなのです。27年前に創業した時に「はなまる」主義を掲げて、今日一日を振り返り「今日の食い扶持」に感謝して「明日への蓄え」を洗い出してルール化する習慣を実践しました。IBMに教わった「知識データベース」の概念を時代に応じて実践して、最近ではHPでの蓄積から電子文書管理へ向かっており「引き出し」を近代化しています。

私の持論である「若さ」=「信念」x「自信」x「希望」の公式に示すように蓄積(信念x実績)を活かす事で「希望」が「羽根をつけた生き物」になっていると確信しています。「百歳現役」というと他の方は飽きますが元気に百歳を迎える方もいらっしゃるので全く儂い夢ではないと確信しています。本気で毎日を希望を持って生きて行きたいと願っています。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】